

・今回のアドバンスクラスは、年始スペシャルという形で、いつもの練習会とは異なるスタイルで、目標について重点的に話をした。

まず、前回のアドバンスクラスで出た「目標とないものねだりの違い」について、それぞれ考えて来たことをシェアし合った。私は、ないものねだりの場合は、ほぼ行動が伴わない。前向きな発言をして気持ち良くなっているだけ。本当に目標を達成しようと思ったら、自分のしょぼい現在地やうまくいかない現実に向き合う必要がある。気持ち良いとは言っていられない。まず、実際の行動が伴うかどうかが指標になると思った。陽子さんからは、「それって辛いことなの?」、「捨てて捨てて捨てまくったら、スッキリするんじゃないの?」と何度も質問をもらった。私が現実に向き合うことを辛いこともあると称したことに、目標を追いかけることは基本的には楽しいことなのだと伝えてくれたのだと思う。

その後に参加者で今年の抱負をシェアし合ったのだが、「今の状態が嫌だから脱したい」や「危機感」を理由に挙げた人が多かったのは、今年の特徴だと思った。(私もそう)これまで前向きで耳触りの良い理由が並ぶことが多かった。ないものねだりをやめようと意識したことで、現状を直視し、今の自分に即した目標になったのだと思う。嫌で嫌でたまらないから、現状を変えたいというのは、大きなエネルギーになる。コンプレックスが起業の理由になる経営者は多いと何かで読んだことがあるけど、人を奮起させるものって、そういうものなのかもしれない。

続いて、参加者同士でお互いの抱負について質問をし合つた。麻美さんから、この前野生ポストに書いた「“種を残せなかつたことに対する罪悪感”は、頑なさから来ているのではないか」と質問をもらった。私としては悲観しているつもりはなく、現実としてある感覚をそのまま話したつもりだったが、うまく伝わらず、陽子さんが補足して説明してくれた。陽子さんは、罪悪感を肯定した上で、代わりに自分は教育や育成に取り組むことで、社会に還元すると決めているという。私は罪悪感の話だけを切り取って話したから、ネガティブに映つたのだと気づいた。

「子供を産んだ人は特別なことをしたと思っていないから、そういう意識が薄い」という話も印象的だった。以前チームmtgの時に「お天道様は見ている」の話になったことがあった。子供がお天道様の存在になるという話だった。その時子供がない分私は自分自身でお天道様を持たなければならないと思ったのだが、今回の話に通ずるものを感じた。ないからこそ、作ろうと思う。私もこれまで生きて来て受けた恩恵を、社会に何かしらの形で返したい思うのだ。

また、従姉妹の癌が発覚した時、咄嗟に「自分がなった方が良かった」と思ったことがあった。自分を軽く扱っているようで健全な考えではないとは思っていたが、その手前の「自分がなってもおかしくなかった」という発想自体が突飛だと指摘してもらった。その理屈が通るなら、「従姉妹は美人なんだから、私も美人になるに違いない」と言っているのと同じだと。たしかに医学的根拠も因果関係もない。「報われなかつた」と同じで、自分の中に瞬間的に湧き上がる感情で、自分でもどこから来ているのかわからない。そういう成り立ちが不明

確な思考が、他にも沢山あるのだろう。陽子さんから「えみちゃんの頑なさは、信じている価値観があって、それによつて思考停止になっている」、「思考停止が原因だ」と、課題を明確に言語化してもらったことで、考えることでしか答えは出ないのだと改めて実感した。

また、アウトプットに取り組む時間が遅く、結果として優先順位が低くなっていることについても、指摘してもらった。これまで昼と夜の生産性の違いを再三伝えてもらっていたのに、生活を変えられなかつた。こうやつた方がうまくいくと言われているのに、それを取り入れない時点で頑なだ。土日の過ごし方を変えていこうと思う。

また、最後に陽子さんから宿題をもらった。一つは、チーム全体で成し遂げることを考えること、もう一つは、どこまで突っ込んで良いのか見せてほしいということ。前者に関しては次回アドバンスクラスの冒頭に話すことになった。後者については、正直どこまで自分が求めているのか、どの程度の痛みまでなら耐えられるのか、理解できていない部分もある。だからこそ、陽子さんもすり合わせが必要だと言つてくれたのだと思う。どう示せばいいのか質問したところ、正月に陽子さんが仕事のトラブル対応で大阪に飛んだ際、その翌日の過ごし方について誰も触れなかつたことにヒントがあると言われた。陽子さんだったら仕事だけで終わらせるはずがなく、必ず主体性を發揮して、自分のやりたいことをやって帰つて来るだろうと、確信に近いものを感じていた。ただ、それをトラブルの渦中かもしれない時に言うことが憚られた。無意識にリスクと判断して言わない選択をしていた。こうやつて距離が近い10年プロジェクトのメンバーに対してできえ、

空気を読むことを最優先にしているのが現実なのだと思った。

年末最後のアドバンスクラスで「目標とないものねだりの違い」という宿題をもらい、年始にスペシャル企画を設けてもらつたことで、これまでで一番現実的な抱負を、それぞれが持てたのではないかと思う。陽子さんがいつもとは違う形で問い合わせてくれたからだと思います。今回もありがとうございました。

(E.M 40代女性 埼玉県)